

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・美術の基礎的技術の学習を通し、積極的に制作に取り組む姿勢を身に付けることができた。
- ・授業内で出すヒントや助言によりアイデアを練り直し、自分らしい工夫を加えられる事ができるようになった。
- ・参考作品や友達作品、自ら制作した作品について感想を述べたり鑑賞を行う事により、感じたことを言葉にし、表現できるようになった。

(2) 課題

- ・知識として得た技法や作業から、新たな表現方法を研究し、独創的且つ想像力豊かな発想を作品に反映させる能力は高まりつつあるが、構想を練るのに時間を要し、作品制作に時間がかかる。
- ・課題解決、主題への掘り下げ、イメージの生み出しへの表現的探究心を高めさせたい。
- ・鑑賞において、昨年度に引き続き、作品制作に時間を取られ、鑑賞やお互いの作品を批評し合う授業に取り組む時間が少なくなっている。
- ・ICT 機器を活用し授業を行ったが、より有効な活用法を模索するべきである。

2 昨年度（現状）の結果分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作する上で、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていく必要がある。	発想を具体的な形や色で表現することに慣れていない。	美術に対する興味・関心が高く、作品制作に意欲的に取り組む姿勢がある。生活の中にある美術や友達作品などのよさや美しさを感じ取れる生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作する上で、基礎的・基本的な技能を身に付けていく必要がある。自由に表現することに苦手意識を持つ生徒が多く見られる。	発想を具体的な形や色で表現することに慣れていない。 発想の飛躍や独創的な表現が少ない傾向がある。何もないところから新たな発想や表現を見いだすことに自信が無い	美術に関する道具や用具の使い方への関心が高く、意欲的に作品制作に取り組んでいる。芸術作品に関しては、一定の関心と理解を示すが、批評し合い鑑賞する時間が制作時間に取りられ、授業で取り組む時間が少ない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作する上で、基礎的・基本的な技能を身に付けていく必要がある。構想がまとまりきらずに作業し、どこまで手を加えたらよいのか迷い、完成に至らないケースがある。	発想を具体的な形や色で表現することに慣れていない。自分自身の発想や独創的な表現が少ない傾向がある。新たな発想や表現を見いだすことに自信が無い。	美術に対する興味・関心が高く、作品制作・鑑賞共に意欲的に授業に取り組んでいる。芸術作品や友達の作品のよさや美しさを、自分の制作に生かそうと取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な、基礎的・基本的な技法・技術を身に付けさせるために、プリントや資料集、また IT 機器を有効に活用し、具体的で明快な実技指導を実践する。	構想を組み立てるアイデアスケッチの段階で鑑賞の授業を活用し、平面・立体を問わず、様々なものから形や色彩を見だし、独自の発想に再構成する作業を重点的に行う。	課題を組み合わせたり、自ら工夫して取り組む要素を加えた教材を準備し、多様な表現を認め育む指導を積極的に行う。お互いの作品を評価し合うことにより、幅広い知識・理解と明確な自分の価値観を育てる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
用具の扱い方等、作品制作に必要な、基礎的・基本的な技法・技術を身に付けさせるために、IT 機器を有効に活用し、具体的で明快な実技指導を実践する。	自他の発想を紹介する機会を増やし、様々なものから形や色彩を見だし、独自の発想に再構成する作業を重点的に行う。互いを意識しながら、自らの作品に活かしていくようにしていく。	作業効率を上げるために、材料等の授業準備や教材を再考し、主体的に取り組めるようにしていく。既成の観念にとらわれない、新しく、柔軟な発想力を認め、個々の生徒に自信をもたせ、多様な表現のあり方やその美しさを理解させる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な、発展的・独創的な技法・技術を身に付けさせるために、参考作品や資料集、また IT 機器を有効に活用し、具体的で発展的な実技指導を実践する	自他の発想を紹介する機会を増やし、互いを意識して、自らステップを踏んで、アイデアを深めていけるようにしていく。	発想力や工夫して取り組む要素を加えた教材を準備し、多様な表現を認め育む指導を積極的に行う。目標を設定し課題意識をもって取り組ませる。新しく柔軟な発想力を認め、美に対する価値観を作品の完成の基準とさせる。

